

令和3年度 第1回日野市環境審議会 議事要旨録

■日時 令和3年(2021年)7月26日(月) 午後2:00～午後4:30

■場所 日野市防災情報センター 災害対策本部室(リモート併用開催)

■出席者:審議委員(敬称略)

新井 直樹 松村 俊孝 成田 豊 伊瀬 洋昭 宮沢 清子 田中 優
千賀 裕太郎 柳川 亜季 加藤木 秀章 大久保 嘉則 尾崎 義昭
高見澤 学 荒井 和誠 岸野 國男 金子 凱彦

理事者1名

荻原 弘次(あいさつ後、公務のため退席)

事務局6名

小笠 俊樹(環境共生部長) 中村 由加里(環境保全課長)

高木 秀樹(環境保全課長補佐) 菱山 哲 山口 真弘 大平 健司

傍聴者

なし

- 会議次第
- 1.開会
 - 2 副市長挨拶
 - 3.審議委員自己紹介
 - 4.会長・副会長の選任
 - 5.審議
 - i 第3次日野市環境基本計画について
 - ii 令和2年度環境白書について
 - 6.次回審議会の日程について
 - 7.閉会

- 配布資料
- ・第3次日野市役所環境基本計画策定について(資料1)
 - ・第3次日野市役所環境基本計画策定について(資料2)
 - ・第3次日野市役所環境基本計画策定について(資料3)
 - ・2020年度(令和2年度)日野市環境白書について(資料4)
 - ・日野市環境審議会委員名簿(資料5)

1. 開会

2. 副市長挨拶

3. 審議委員自己紹介

4. 会長・副会長の選任

千賀 裕太郎氏が会長、柳川 亜季氏が副会長へ選任された。

5. 審議

(第3次日野市環境基本計画について)

事務局より資料 1.2.3 に基づき説明を行った。

委員

ひの生き物プランは実際にどのように実施され、どのように進行されているのか教えてほしい。

委員

資料1 第2次環境基本計画と第3次環境基本計画に新しい項目 5(人と多様な生き物が共に暮らせるまち)が追加されている。新しい項目が追加されている理由が見当たらない。

(2)(3)のように細分化するのはなぜか。

資料1の項目 5(1)(2)(3)と資料2の目標5の項目の言葉があっていない。

事務局

現状のひの生き物プランのすすめ方について重点プロジェクトを 8 つ設けている。

しかしコロナ等の影響もあって会合などができておらず、手を付けられていない。

今年度は、新しい生活様式の中で生き物プランを進める方法を検討している。

目に見える、進行している(生き物)プランは日野中央公園のバタフライガーデン、神明野鳥の森公園の下段の人工池で子供たちの環境学習ができる場を整備し、維持管理を始めた。

資料1の裏面施策の方向にあるものが正しい。資料2の分野別取り組みについては修正を行う。なぜ新しい項目を環境基本計画に取り入れたのかについては、第2次環境基本計画策定のなかで議論されており、本来であれば低炭素社会を築くまち・生物多様性については同じタイミングの条約ではじまったと考えており、もっと早い時点でうたってよかったのではないかと考えている。日野市では古くから生き物の共存に取り組んでおり、計画が先か、実際の行動が先かはあるが、日野市として生物多様性は載せるべきものと考えている。

委員

(資料1目標5の)(1)生き物と共に暮らせる人と自然の関りの創出などの言葉を整理して、なおしてほしい。現状だと、たぬきや蛇も含めてしまうのではないか、考えてほしい。
生物多様性についてですが、生態系サービスという言葉についてもコメントしてほしい。

事務局

視野に入れて検討いたします。

委員

(資料1)目標1.2 豊かな海を育てるのが「川」という認識を盛り込んでほしい
目標4. 市民ができる温室効果ガスの削減を含めた新しいライフスタイルの提案がないとできない。そういう考えに誘導する文言を加えてほしい
目標6 (「鉄道」「道路」「電車」を利用する)日野市を通過する人たちへ向けたメッセージを入れられないか

事務局

目標2 水文化を伝えるまちで、豊かな海を守るという文言を入れてわかりやすく説明したい。
(目標4について)新しいライフスタイルの取入れは、これまで気候変動緩和に取り組んできたが、適応は浸透していない。このあたり、気候変動に上手に付き合っていくために、新しいライフスタイルについて市側から提案できるものは、市から提案していく。基本計画を進めていくなかで、啓発として示していきたい。
(目標6)通り過ぎる方々については、日野市だけでは成しえないものがたくさんある。広く広域的に連携を取り、発信できるものを考えていく。

委員

資料2 目標3について

プラの焼却回避はCO2削減につながる。ごみゼロのなかでプラについてもっとあってもよい。
目標4 プラの焼却が温室効果ガスの排出削減に寄与していることを市民に向けて示してほしい。
目標4(3)の地域特性にあった適応についてですが、自然環境で触れられているが集中豪雨や台風で河川決壊など地域被害が発生し災害廃棄物が発生する。自然環境だけでなく災害廃棄物対策についても踏み込んでほしい。水害について災害廃棄物対策が重要になっていく。災害がいざ起こったときにどのように処理するかが大切になっていく。
環境基本計画の目標全体を通して、各目標でとりあげられている重複する場面があると思う。例として目標6は廃棄物対策にもつながっている。一つの取り組みが複数の目標にからんでいく。そういった整理をしてほしい。

事務局

プラスチック削減については、プラスチックスマート宣言の企画経営課、災害廃棄物についてはごみゼロ推進課などと連携してつめていく。重複する部分については、分かりやすく整理する。

委員

基本理念「ひとりひとりのふだんの取り組み」はいろんなものにかかわっていく。プラスチックの分別など(は)日常の中でも、ものすごい回数で起きる。広域の連携まで含めて、いろいろなところで連携していることを表現してほしい

事務局

日野市ではふだんの取り組みを大切にしている。いろんなところと連携して取り組んでいくことを見える化していく。

委員

コロナの影響で強いられた新しい生活様式がプラスの環境配慮行動につながっている
今後定着させていく位置付けがあってもよいのではないかと。

目標 3.4.6 にかかわってですが、巣ごもり需要でごみが増加している。コロナに伴って大変苦しい経験をした中で環境配慮についてより目を開いてもらい、環境計画の推進につなげられたらと考えている。

感染症についてですが、危機的状況から立ち直る過程でサステナブルな社会を目指していこうと考えられていると思う。感染症関連の経験をいかす形でバージョンアップ出来たらと思う。感染症に関しては今後避けて通れない。人々に直接影響するものは、共通の SDGs 目標などを環境基本計画の中で関連付けを行って、市民の健康と安全・環境負荷の低減に向けて新しい計画を打ち出してもよいのではないかと。

事務局

これまでテレワークなどコロナ前まで実現しようとしてもできなかったことがある。事業の見直しとして、これまでは多くの人を集めて、事業を遂行するイベントに積極的に取り組んでいた。このコロナ禍で集まらないで楽しんでもらえるイベントづくりを考える良いきっかけになっていると思う。持続可能な社会づくりというなかでは、コロナ禍で経営が苦しくなっている飲食店向けに環境配慮容器、本来ならばごみとなるサトウキビの搾りかすで容器を作るものを配布するなど飲食店支援と併せてプラスチックごみの排出量削減などこれまでなかった視点でいろんな考え方を持つようになった。これからも積極的に取り組んでいきたい。環境基本計画の中では難しいかもしれないが、感染症については関連する部署と連携して取り組んでいけるものを作っていきたい。

委員

基本目標 1～6 に入っていない大事な問題として、景観、自然災害がある。日野市だと洪水対策が防災上問題になっている。重要な問題だと思うので入れてほしい。特に急斜面のがけなどは緑の保全をされており、危険区域になるという問題もあると思うので考慮してもらいたい。洪水について、水没するような場所がたくさんある。用水についても水没対策と関連して検討してほしい。用水と排水の問題について見えておらず、関係について整理してもらいたい。

事務局

景観は日野市のなかでまちを構成する大切な要素。分野別の取り組みのみどりの原風景を伝えるまちや水文化を伝えるまちの中で触れていきたい。崖や洪水について、適応策で気候変動につながる部分やみどりと水につながる部分があるのでこういった対策も出てくる。用水・排水の問題は、下水道や道路課の排水の問題、用水を取水する問題は気候変動として適応していかないといけない。用水の取水の遠隔操作など詳細の問題については、基本計画に詳細を載せるのではなく、各実施計画の中で取り組んでいきたい。

委員

基本計画に直接載せないということでしたが、大事な問題なので、必ずどこかの中で景観については説明してもらいたい。洪水についても、自然環境の保全でかわりが出てくると思うのでどこかで入れてもらいたい。昔、土砂災害指定地域に指定されたことで地価が 1/5 に下がったという場所もあるので日野市の地価対策についてもかわる大事な問題だと思うので考えてもらいたい。

委員

資料2の目標 3 の ii で、いろいろ情報発信をすとなっている。ここで書いてあるのは紙媒体となっている。情報を発信することは重要だと思うが、紙媒体もごみになる。ここで書いてしまうと、紙媒体で発信しなければならなくなる。日野市の各家に紙を配布すると考えるとごみの削減につながらない可能性もある。アプリや SNS で確認される方もいらっしゃるのではないかな。どのように進めていくのか。

(目標 3) i はリターンについて「販売店」へのみなのか、方針としてどうなるのだろうか。どういう枠組みでやるのだろうか。

事務局

ごみゼロについては、紙媒体については検討中。すべてがアプリで対応できず、紙でないと対応できない人もいます。ごみ減量を考えていくのは当然ですので、検討していく。

販売店のリターンは容器包装お返し大作戦として、買ったトレイやペットボトルを買ったお店に

返すということを働きかけている。こういったものをより活発化する、販売店や品目を増やすことについて努力を重ねていく。

委員

土壌汚染調査について実際に行っているのならば記載してほしい。資料3についてですが、環境基本計画が策定されるのはいつでしょうか。IPCC の6次が来年2月には公表され、環境省の和訳が半年遅れほどで出てくるが 環境基本計画の策定期間は？新しい報告を受けて作成するのか？

事務局

土壌汚染については、記載として抜けているので修正を行う。
環境基本計画については、来年3月、議会承認を受けて完成。IPCC などについてはわかる範囲で情報収集して、網羅することはできないが中間検証などで盛り込んでいきたい。

(令和2年度環境白書について)

事務局より資料4に基づき説明を行った。

委員

P67～69 環境の決算について、歳出についてクリーンセンターや下水道の支出が目立つ。下水道については、白書のほかの部分に出てこない。決算にだけ突然出てくることの説明をお願いしたい。

※環境基本計画について

環境基本計画の中で第2次には新エネルギーの記載があったが、3次では欠落している
第3次にも新エネルギー、学校でのソーラーパネル問題、小水力、その他再エネについて触れなくてよいのか

ごみ処理施設の発電についての記載がない

事務局

クリーンセンターの支出については、ごみ処理施設の新設によるもの。下水道については、環境基本計画のなかで検討する。下水道の支出は、借金をして下水道管を埋設してきた。その借金の返済額が実情。

新エネルギーについては、小水力発電を考える会と検討してきた。かなり実行が難しい。

ごみ処理施設の熱エネルギーで発電している。

委員

ごみ処理施設での発電に記載がない。

事務局

現状、発電について記載がないので修正する。

ソーラーパネルについては資料 P51 に記載がある。

2050年 CO2 を環境基本計画で、太陽光と併せて再生可能由来の電気の利用を視野に入れていく。現在、カワセミハウスが利用している。

委員

P44 中期目標について、会議冒頭(副市長説明)で話があった 2050 年ゼロカーボンについて、(新しい数値に)置き換わった報告になるのでしょうか。

事務局

現在改定をかけている地球温暖化対策実行計画の中で説明をしていく。

委員

2050 年カーボンニュートラルは、日野自動車でも目指すが、非常にチャレンジングで厳しい目標。30 年先の目標でもあるので、どこか途中で定期的な評価をする必要があると考える。(削減の)ラインに乗っているか、50年までのある程度のシナリオを見据えてある程度の評価が定期的に行えるようになれば、削減ができていくか、見やすくなるかなと思うのでそういう工夫があるとよい。

委員

環境白書の中で、農地が少なくなっている問題に触れられていない

事務局

第2次環境基本計画の中で農地の保全と活用、まちなかのみどりの創出・保全を多様なみどりの保全としてまとめている。都市農業振興課を中心に検討を進めていく。

委員

環境分野でいろいろなことに取り組む人に対する表彰制度、データなどはありますか？

事務局

毎年11月の文化の日に、市民表彰という形で個人・団体を表彰する制度はある。

環境関連の方が表彰を受けたことはある。

委員

実際に活躍された方が出てくれば勇気づけられるのではないか

事務局

検討する。

6. 連絡事項(次回環境審議会について)

2021年10月に開催予定

7.閉会